

(様式4)

令和5年度 学校総合評価

6 今年度の重点課題に対する総合評価

令和2年の再編統合から4年が経ち、全学年とも4学科7クラス体制が定着してきた。今年度は5月にコロナが5類感染症となり、ほぼコロナ前の教育活動が実施できた。毎日の授業や部活動はもちろん、体育大会や文化祭等の学校行事、また各科の研修旅行等についても実施することができた。

重点項目のうち、「学習指導（教科指導）」と「学校生活（健康管理）」、「特別活動（特別活動指導）」の3つは、評価をAとした。生徒全員がタブレットPCを貸与されてから4年が経ち、ICT、タブレット機器を用いた指導が浸透し、教育活動全般において効果的に活用されている。また、互見授業や校内外の研修により、その技量も向上してきている。さらに、面談を通しての生徒指導や健康・安全に関する情報提供、講演会、SNS利用に関するHRなどの取り組みは、心身ともに健康な生徒の育成につながっている。すべての学校行事を開催し、また、多くの部活動において全国大会、ブロック大会レベルの出場を果たすなど、多方面で生徒が活躍する様子を見ることができた。

「特別活動（読書指導）」については、年14回のお便りの発行や図書委員の研修、教養講座の開催など活発な活動ができているが、蔵書の除籍・廃棄については課題がある。

「進路支援（進路指導）」では、進路指導についての生徒の満足度が目標の80%を下回る項目があったが、資格や試験の合格率は例年通り高い結果が得られた。「その他（保護者や地域との連携）」については、PTA会報や「福高だより」の発行、PTA研修会もほぼ予定通り実施することができたが、今後とも保護者の参加意欲と満足度のより高い活動を目指す必要がある。以上から、この3項目は評価をBとした。

「学校生活（生徒指導）」におけるスマートフォンやインターネットの1日の平均利用時間に関しては2時間以内の生徒の割合が50%未満となり目標に及ばなかったので評価をCとした。

今年度の取り組みの結果を総合的に考察することで、次年度の取り組みの更なる向上につなげていきたい。

7 今年度の重点次年度へ向けての課題と方策

本校は、普通科、国際科、農業環境科、福祉科の4学科からなる、生徒数約750名の大規模校である。「学び合い高め合おう」というスクールモットーにふさわしく、各学科の特徴、また、大規模校ならではの特色を生かしつつ、学習や部活動、特別活動等を通して主体的・意欲的そして協働的に取り組む生徒の育成を目指したい。

学校の課題解決には、生徒と教職員が一丸となって取り組むとともに、保護者や地域の理解と協力が不可欠である。これまで地域に根ざした教育活動を行ってきた本校として、教育諸活動や生徒の活躍の様子などの情報共有を図りつつ、広く世界へ発信することを見据えた取り組みにも力を入れていきたい。

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和5年度 南砺福野高校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習指導 (教科指導)	
重点課題	教育クラウドやタブレットPCを活用した授業方法の実践研究 互見授業による教員の指導力向上 (協働的な学びの促進に向けて)	
現 状	<ul style="list-style-type: none">・新教育課程や観点別評価の導入に伴い、実践を具体的に進めていく。・若手教員が多く赴任してきており、授業の進め方や授業課題の与え方などに不安を感じている教員も多く、経験のある教員から有効な助言や指導が希求とされている。・4学科が併設している本校の利点を生かし、他学科や他教科の授業を参観することで教員の授業の幅や質を高めていくことが必要である。教員自身が指導法を見直し、主体的・対話的で深い学びとなるよう絶えず工夫していくことが肝要である。全生徒がタブレットPCを1人1台持つことを効果的に生かす指導研究を今後も続けていく必要があり、ICT機器の効果的な活用方法を実践研究するなど、研修の積極的な実施が望まれる。	
達成目標	① 教育クラウドを活用した学習指導やタブレットPCを活用した授業を行った教員の割合	② 互見授業および校内外の研修会等への、教員一人あたりの参加回数
	① 80%以上	② 4回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・ICT機器の研修会を行い、ICTの活用方法を学び、教育の情報化に積極的に取り組む。・各教科で授業での活用方法や問題点などを研究し、活用を推進する。・研究授業を行い、検討を通して指導スキルを高める。	<ul style="list-style-type: none">・授業公開期間を学期ごとに設定し、同じ教科だけでなく他教科・他学科の授業も参観しやすい環境を整える。・若手教員研修を企画し、先輩教諭の助言を継続して行う。・新教育課程やICT・新たな学び関連の研修会等の情報をグループウェアや連絡会で共有し、参加を呼びかける。
達成度	84%	教員一人あたり参加回数平均4.1回
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・教員に対して、校内のみならず校外のICT研修会にも積極的に参加するように促し、教員間でICTによる効果的な活用指導例を共有することで校内での活用促進を図った。・ICT機器の活用によって、教員による教材提示、個に応じる学習、調査活動、思考を高める学習、表現・制作、家庭学習、発表・話し合い、協働での意見整理、協働制作、学校の壁を越えた学習など、生徒にとって分かりやすい指導、深い学びにつながっていると、教員・生徒の大半が実感している。	<ul style="list-style-type: none">・今年も授業公開期間を設定し、教科外の授業も積極的に参観するよう呼びかけを行った。・若手教員と先輩教員とでペアを組み、学習指導等の研鑽を図った。・研修会の案内や先進的な取り組み事例などを教員に紹介した。・12月に若手研修会を実施した。
評価	A	・生徒全員がタブレットPCを所有するようになってから4年が経ち、ICT、タブレット機器を用いた指導が浸透し、教育活動全般において効果的に活用されている。
学校関係者の意見	ICT、タブレット機器を用いた指導が浸透し、また、互見授業や校内外の研修により教員の技量も向上しており、教育活動全般において効果的に活用されている。	
次年度へ向けての課題	機器やネットワーク利用において不安を感じたり、活用方法に悩みを抱えていたりする教員もあり、今後も研修の機会を設け、教員のITリテラシー向上をめざす必要がある。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:やや不十分だった D:不十分だった)

令和5年度 南砺福野高校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活（生徒指導・健康管理）	
重点課題	福高生として誇りを持ち、主体的に考え、判断し行動する態度の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンやインターネットなどを長時間使用することで、生活のリズムを崩す生徒が増え、SNSの誤った使用による生徒間のトラブル等も見られるようになっている。 ・心身の不調により、遅刻や欠席を繰り返す生徒が増えつつある。 ・感染症予防への継続的な具体的対策として、学習環境を整えたり、健康管理を行ったりするなど自己管理能力を育成する必要がある。 	
達成目標	① 自律週間中のスマートフォンやインターネットの1日の平均利用時間が2時間以内の生徒の割合	② 生徒に健康・安全・感染症予防に関する情報を提供する回数
	① 「達成できた」と答える生徒が70%以上	② 年間10回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、自律を促す啓発活動を行うとともに、自律週間後の振り返り時に使用実態を調査する。 ・生徒の出席状況を確認し、教育相談室、学年、教科担当との連携を密にして生徒支援に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康・安全に関する意識の高揚を図るため保健厚生委員会と連携して講演会等を企画する。 ・「保健だより」等で、生徒が健康問題に適切に対処するための情報を適宜発信する。
達成度	①自律週間中のスマートフォンやインターネットの1日の平均利用時間が2時間以内の生徒の割合	① 講演会の実施 福高展での展示 保健だより発刊や校内放送による周知
	①全学年の平均 46.9% (1,2年生約40% 3年生約60%)	② 情報提供12回 達成度100%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に統一ホームルームを実施し、各クラスでスマートフォン・ネットの利用に関するクラスルールを決め、1・2学年については10月にルールの見直しを行った。 ・1・2学期の期末考査期間を中心に「ネット利用自律週間」を設定し、啓発ポスターを教室、廊下に掲示したり、Google Classroom を使ってルールの遵守を呼びかけたりした。 ・自律週間後には振り返りのアンケートを実施した。 ・心身の不調で問題を抱える生徒に対してはケース会議を行い、チームで支援する体制を整えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康に関する講演会、性に関する講演会、薬物乱用防止の講演会を実施 ・生徒保健委員会による保健だよりの発刊（6回） ・臨時号の発刊 震災後のケア（1回） 学校保健委員会のまとめ（2回） 感染症予防に関する速報（3回） ・福高展での生徒保健委員会による「多様性（性・障害）や人権」についての展示 動画の上映 ・毎月、教室および廊下の環境整備および持ち物整理の啓発を促す校内放送
評価	生徒指導部 C 保健厚生部 A	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンやネットの利用に関するホームルーム活動を、生徒の自律を促す取り組みとして実施することができた。 ・1日平均利用時間が2時間未満となった生徒の割合は、1・2年で約40%程度、3年生でも約60%にとどまり、目標に及ばなかった。 ・新型コロナウイルス5類移行後、学校生活を見直し（油断せず3密を避ける、手洗いおよび換気の励行。マスク着用は自己判断）感染対策を取りながら通常の行事を実施できるよう尽力した。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンの使用に関しては、使用時間の長さばかりにこだわらず、実情としてどのような使い方がなされているかを把握することも大切ではないか。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン・ネットのオーバーユースが、健康や学習成績に与える負の影響について考察する時間をもっと設ける等、今後有効な手立てをさらに工夫していく必要がある。 ・一人一人の行動がクラスや学年の学習環境の整備や学習意欲につながる。自己肯定感をもたせ、健康的で前向きな高校生活を送れるようサポートする必要がある。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった)

令和5年度 南砺福野高校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（進路指導）	
重点課題	<p>「総合的な探究の時間」や進学講話・進路セミナー等行事の充実（普・国・農・福） 生徒への情報提供や面接の充実（普・国・農・福） 検定資格の取得に向けた意識の向上と合格者数の増加（国・農） 介護福祉士国家資格取得（福）</p>	
現 状	<p>・多様化していく生徒に対して、個々に見合った対応など指導の工夫が必要である。 ・広く多くの情報の中から自己の将来像を描いてほしいが、生徒個人で新しい情報を探することは困難なこともあるため、より効果的な情報提供や面接指導が必要である。 ・国際科では、「読む・聞く・話す・書く」の4技能をバランスよく伸ばし、活用できるコミュニケーション能力を育成するために、授業内でプレゼンテーション、エッセイ、スピーチ、ディベート、ディスカッションなどの活動を積極的に行っている。また、4技能の伸びを測定するために、毎年全員 GTEC を受験し、さらに、多くの生徒が英検に挑戦している。 ・農業環境科では、農業技術検定・危険物取扱者は全員合格、測量士補・造園施工管理技術検定は類型別に全員合格を目標に学習しており、余力のあるものはさらに各自で資格取得に挑戦しているが、各資格において知識が定着しない生徒もいる。 ・福祉科生徒の進路は多岐にわたるが、「介護福祉士国家試験合格」を目標に掲げる生徒が多く、生徒の目標を実現させるための継続的な指導・支援が必要である。また、近年の介護人材不足により、専門的知識の習得のみならず、実践力を身につけた質の高い介護福祉士の育成が求められている。</p>	
達成目標	<p>① 以下の観点での生徒の満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生は生徒の学力向上を目指して努力している。 進路についての面接がよく行われている。 進路に関する情報が豊富である。 進学講話・学年集会は進路を考える上で役立っている。 「総合的な探究の時間」は進路を考える上で役立っている。 	<p>② 卒業時に英検2級相当以上の英語力を身につけている生徒の割合（国際科）</p> <p>③ 全国に通用する各種資格・検定3つ以上を取得した生徒の割合（農業環境科）</p> <p>④ 介護福祉士国家試験の合格率（福祉科）</p>
	<p>① 80%以上</p>	<p>② 100%（国際科）</p> <p>③ 100%（農業環境科）</p> <p>④ 100%（福祉科）</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 進路セミナーや大学・企業研修を効果的に活用する。 進路に関する集会や面接を充実させる。また、「総合的な探究の学習」の時間を効果的に活用する 	<ul style="list-style-type: none"> 総合実習、外部講師の授業、インターンシップ、職業講話などを活用し、進路意識の向上を図る。 目標を持って資格取得試験に向かうよう、指導法を工夫し学習習慣を身につけさせる。 関連科目の担当者同士の連絡を密にし、資格取得の意義を生徒に理解させ、意欲を引き出すとともに学習内容や生徒の理解度等の把握に努め、適切な課題等に取り組みさせる。 土曜特別講座における外部講師による受験対策を行う。 福祉施設等と連携し、体験活動等の機会を設け、生徒に活動への参加を促す。
達成度	<p>①進路に関するアンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> 5項目の平均 (81.7%) 学力向上に向けての先生の努力度 (93.5%) 進路についての面談回数の満足度 (83.0%) 	<p>②国際科で英検2級相当 (GTEC960) 以上の英語力を身につけている生徒は、クラス全体の60%であった。</p> <p>③今年度の3年生は、卒業までに3つ以上の資格・検定を取得・合格した生徒の割合は、100%であった。</p> <p>④介護福祉士国家試験合格率は未定 (合格発表は3月25日)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・進路についての情報の豊かさ (76.7%) ・進路における進路講話の貢献度 (77.1%) ・進路における探究の時間の貢献度 (78.3%) 	
具体的な取組状況	<p>①保護者や卒業生、南砺商工会からご紹介頂いた企業様を講師に招き1年進路セミナー15講座を開講し、一人2講座を受講した。</p> <p>1学年普通科・国際科の生徒対象に、南砺市バスツアーを実施した。</p> <p>2学年普通科・国際科の生徒対象に、富山の企業魅力発見推進事業で企業訪問を行った。各学年とも保護者会・懇談会を実施し、進路のしおり等を懇談会で活用した。</p> <p>富山大学と富山県立大学の大学出張講座に、2学年の生徒が参加した。</p> <p>外部講師の進学講話を各学年1回以上実施した。</p>	<p>②資格取得に向け、授業の冒頭にスピーキング、長期休業中に補習、個別に面接練習を実施した。</p> <p>③農業環境科の生徒に資格取得に対する意識を入学時より高く持たせるとともに、アグリマイスターやとやまの高校生マイスターの取得を目標に持たせ、意欲的に各種の資格や検定、専門科目の学習に向き合えるように取り組んだ。</p> <p>④年間を通して、学習時期に適した課題内容及び課題量を明確に提示し、確実に取り組めるように工夫した。3年次では7回の模擬試験を実施し、生徒の習熟度や苦手分野を把握した。習熟度に応じて、放課後に個別指導や少人数でのグループ学習、質問教室等を行った。</p>
評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年の南砺市バスツアーにより、南砺市の企業に関する生徒の興味関心が増加した。 ・1学年の進路セミナーでは、職業を含めた進路への知識・関心を深めた。 ・2学年の企業訪問では、大学卒業後に富山に戻り活躍できる企業について知る事ができた。 ・大学出張講座により、大学の研究内容を知ることにつながり、進路選択に役立った。 ・進路に関する資料は、生徒・保護者の進路に関する知識を深めることに貢献できた。 ・外部講師の進学講話を各学年1回実施することで、進路に関する知識を深め、学習意欲向上につながった。
学校関係者の意見	<p>多様性社会において、国際科は他国の言語だけでなく、アジア圏も含めた文化も理解する学習活動が求められている。想定外の大規模災害時の学習活動のマニュアル化や、ICTを活用した教育にも見直しや工夫が必要な時期である。</p>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・進路行事について、生徒の実態に合わせた効果的なものになるように工夫する。 ・個々の生徒の進路実現に向け、その目的に合わせた自発的な学習の機会が与えられる仕組み作りを行う。家庭学習の重要性を意識させ、生徒の学習意欲や理解度等を把握し、効果的な学習指導を考える。 ・国際科の卒業生の状況から、達成目標を再検討する。 ・生徒の実態把握、それに応じた支援・指導の体制及び方法を工夫する。 ・資格を取得することだけを目標とするのではなく、その過程で学び得た知識や技術を生徒一人ひとりの今後の進路や生活等において活かすことができるという実感を持たせられるような支援・指導の在り方について再考する。 	

令和4年度 南砺福野高校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動（特別活動指導・読書指導）	
重点課題	自主態度と思索する心の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒の95%が部活動に加入し、精力的に活動を行っている。県レベルを超える大会等に出場する団体数はここ数年15団体を超えている。 ・コロナ前とほぼ同じように活動できるようになってきており、強化練習や合宿等の実施等、各部活動の活動内容を見直し、改善することによって、学校全体の部活動の活発化を図っている。 ・各学校行事においても、内容を吟味・改善して、コロナ前のものに近づけるようにしている。 ・読書指導では、読書会を行うことで、普段読まないジャンルの本を読む機会を増やすように努めている。昨年度は6クラスがHRでビブリオバトルに取り組んだ。終了後に行ったアンケートでは、88%が「楽しかった」、85%が「読みたい本があった」と回答した。読書への興味を引き出せる活動であり、今年度も取り組む予定である。 ・生徒に読ませたい本や購入したい本が多数あるが、閲覧室は新しい本を置く余裕がなく、書庫も空きスペースがない状況で、蔵書の除籍・廃棄を進める必要がある。 ・読書を活発にするためには、まず多くの生徒が図書室に来ることが先決である。授業等の調べ学習に利用してほしいが、Wi-Fiで接続できないため利用をあきらめる生徒も多数存在する。 	
達成目標	① 県レベルを超える大会等への出場団体数	② 情報発信 ③ 蔵書の除籍・廃棄
	① 15団体以上（全国大会レベル5団体以上）	② お便り（「啓明館だより」、「はばたき」、「啓明」）の発行 年14回 ③ 図書原簿のデータ化の完成
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・強化試合や合宿等を実施し、部活動の充実と活性化を図る。 ・外部講師招聘や情報収集、様々な通信機器の利用等で、指導法・練習内容のレベルアップ、生徒のモチベーションアップを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新刊書等の情報が生徒に伝わりやすいように、お便り（印刷物）の発行に加えて、ポップ作成と掲示による視覚的な広報活動を進める。 ・効率的に蔵書の除籍・廃棄に取り組むために、図書原簿のデータ化を進め、廃棄する。 ・Wi-Fi等の環境整備を図る。
達成度	・県を超える大会出場 16団体、全国大会9団体	② お便りの発行 年14回（予定） ③ 図書原簿のデータ化は若干、遅れ気味
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の活動制限はほぼなくなり、活動自体は昨年度より充実・活発化していると考えている。強化合宿も、コロナ以前の形になってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポップ作成を夏期の生徒課題のひとつにし、提出されたものを閲覧室に掲示した。 ・お便りの発行は予定通りの発行14回になる予定である。 ・昨年からの事業として南砺市立図書館との連携事業で図書委員の研修（「日本十進分類法」で調べもの体験」等）を行った。 ・第3回の教養講座の一部で、著作権について考えた。 ・図書原簿の除籍・廃棄のため、2社のソフトを比較し、データ化を進めている。 ・Wi-Fi等の環境整備を、ネットワーク管理者や事務部に依頼した。
評価	特活部 A	・目標であった県大会以上15団体（全国大会5団体）はクリアーし、昨年度より全国大会出場が3団体増えた。また全国大会8位入賞者も複数いた。
	図書部 B	・南砺市と連携事業で図書委員に対する研修が今年度も実施されて良かった。 ・蔵書の除籍・廃棄については、昨年度より、遅れ気味である。
学校関係者の意見	・特定の部活動について、顧問にも生徒にも過度の負担がかからないようにしてほしい。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前と同じように活動できるようになってきており、強化練習や合宿等の実施等、各部活動の活動内容を見直し、改善することによって、学校全体の部活動の活発化を図る。各学校行事においても、内容を吟味・改善して、コロナ前のものに近づけるようにする。 ・読書量のアップのため、読書会や夏休みの課題を考える必要がある。 ・図書原簿の除籍・廃棄のため、図書管理システムの更新が必要である。 ・生徒や教員がWi-Fiを利用したいと訴えているので、Wi-Fi等の環境整備が急務である。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった）

令和5年度 南砺福野高校アクションプラン - 5 -					
重点項目	その他（保護者や地域との連携）				
重点課題	保護者・地域との連携・協力による、開かれた学校づくり				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の流行が終息に向かいつつあり、PTA総会や大学視察研修会などのコロナ禍以前の活動が戻りつつある。PTA役員の方々と話し合い、より意義のあるPTA活動となるように検討・模索していく必要がある。 ・広報誌や情報ツールなどを活用して、保護者の方々にPTA活動や学校についての関心の高揚を図り、相互の連携向上を図る必要がある。 				
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>① ホームページ等による情報提供や内容充実</td> <td>② 学校への関心の高揚</td> </tr> <tr> <td>① 各種委員会への役員出席率 70%</td> <td>② 「福高だより」の発行 7回</td> </tr> </table>	① ホームページ等による情報提供や内容充実	② 学校への関心の高揚	① 各種委員会への役員出席率 70%	② 「福高だより」の発行 7回
① ホームページ等による情報提供や内容充実	② 学校への関心の高揚				
① 各種委員会への役員出席率 70%	② 「福高だより」の発行 7回				
方 策	<table border="1"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA便り「いわお」で情報を伝える。 ・ホームページでの情報提供や更新回数を向上させる。 ・福高メールでの情報提供の充実を図る。 ・PTA研修会で、魅力的な講師を招聘する。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に部会を行い、計画的に進める ・保護者が興味・関心を持てるよう内容を精査する。 ・保護者アンケートをとり、関心度を調べる。（1, 2学期保護者会時） </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA便り「いわお」で情報を伝える。 ・ホームページでの情報提供や更新回数を向上させる。 ・福高メールでの情報提供の充実を図る。 ・PTA研修会で、魅力的な講師を招聘する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に部会を行い、計画的に進める ・保護者が興味・関心を持てるよう内容を精査する。 ・保護者アンケートをとり、関心度を調べる。（1, 2学期保護者会時） 		
<ul style="list-style-type: none"> ・PTA便り「いわお」で情報を伝える。 ・ホームページでの情報提供や更新回数を向上させる。 ・福高メールでの情報提供の充実を図る。 ・PTA研修会で、魅力的な講師を招聘する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に部会を行い、計画的に進める ・保護者が興味・関心を持てるよう内容を精査する。 ・保護者アンケートをとり、関心度を調べる。（1, 2学期保護者会時） 				
達成度	<table border="1"> <tr> <td>・役員出席率 70%</td> <td>・福高だより発行回数 7回</td> </tr> </table>	・役員出席率 70%	・福高だより発行回数 7回		
・役員出席率 70%	・福高だより発行回数 7回				
具体的な取組状況	<table border="1"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA会報「いわお」を7月と12月の2回発行した。第2回ではウェルビーイングの特集を設定し、生徒アンケート結果をもとに総務委員で座談会を行った。 ・PTA研修会ではデイサービスDAYS BLG! はちおうじスタッフさとうみき氏を招き、講演会を行い大好評だった。 ・安心安全メールで保護者の方々との情報共有や緊急連絡を随時行った。 ・各委員会の前に委員長と事前打ち合わせを行ったことで、限られた会合時間の中で効率よく協議や情報共有をすることができた。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・総務部会を行事ごとに実施し、行事の内容や仕事の分担について打ち合わせた。 ・福高だよりの発行は、予定通り7回発行できた。時期ごとの学校行事などを取り上げ、学校での活動の様子が保護者に伝わるように心がけた。第3号から紙ベースでの配付発行を改め、保護者に安心安全メールで案内し、ホームページで公開するようになったことで、これまで以上に保護者の目に触れやすくなった。 ・全保護者へのアンケートは実施できなかったが、行事や会合の際にPTA役員や参加者に意見をいただいた。 </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA会報「いわお」を7月と12月の2回発行した。第2回ではウェルビーイングの特集を設定し、生徒アンケート結果をもとに総務委員で座談会を行った。 ・PTA研修会ではデイサービスDAYS BLG! はちおうじスタッフさとうみき氏を招き、講演会を行い大好評だった。 ・安心安全メールで保護者の方々との情報共有や緊急連絡を随時行った。 ・各委員会の前に委員長と事前打ち合わせを行ったことで、限られた会合時間の中で効率よく協議や情報共有をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総務部会を行事ごとに実施し、行事の内容や仕事の分担について打ち合わせた。 ・福高だよりの発行は、予定通り7回発行できた。時期ごとの学校行事などを取り上げ、学校での活動の様子が保護者に伝わるように心がけた。第3号から紙ベースでの配付発行を改め、保護者に安心安全メールで案内し、ホームページで公開するようになったことで、これまで以上に保護者の目に触れやすくなった。 ・全保護者へのアンケートは実施できなかったが、行事や会合の際にPTA役員や参加者に意見をいただいた。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・PTA会報「いわお」を7月と12月の2回発行した。第2回ではウェルビーイングの特集を設定し、生徒アンケート結果をもとに総務委員で座談会を行った。 ・PTA研修会ではデイサービスDAYS BLG! はちおうじスタッフさとうみき氏を招き、講演会を行い大好評だった。 ・安心安全メールで保護者の方々との情報共有や緊急連絡を随時行った。 ・各委員会の前に委員長と事前打ち合わせを行ったことで、限られた会合時間の中で効率よく協議や情報共有をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総務部会を行事ごとに実施し、行事の内容や仕事の分担について打ち合わせた。 ・福高だよりの発行は、予定通り7回発行できた。時期ごとの学校行事などを取り上げ、学校での活動の様子が保護者に伝わるように心がけた。第3号から紙ベースでの配付発行を改め、保護者に安心安全メールで案内し、ホームページで公開するようになったことで、これまで以上に保護者の目に触れやすくなった。 ・全保護者へのアンケートは実施できなかったが、行事や会合の際にPTA役員や参加者に意見をいただいた。 				
評価	<table border="1"> <tr> <td>B</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA会報の発行やPTA研修会の実施、福高だよりの発行もほぼ予定通りに実施できた。PTA総会の対面実施、PTA関係の各行事や活動の際、役員をはじめ多くの方々に参加していただき、好評であった。 ・今年度はPTA会長が砺波地区高P連大会で、本校のPTA活動についての発表や全国高P連宮城大会での紙上発表も行った。 ・役員の方々から意見をいただき、各委員会活動の内容の見直しや今後の役員定数の見直しも検討した。 </td> </tr> </table>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA会報の発行やPTA研修会の実施、福高だよりの発行もほぼ予定通りに実施できた。PTA総会の対面実施、PTA関係の各行事や活動の際、役員をはじめ多くの方々に参加していただき、好評であった。 ・今年度はPTA会長が砺波地区高P連大会で、本校のPTA活動についての発表や全国高P連宮城大会での紙上発表も行った。 ・役員の方々から意見をいただき、各委員会活動の内容の見直しや今後の役員定数の見直しも検討した。 		
B	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA会報の発行やPTA研修会の実施、福高だよりの発行もほぼ予定通りに実施できた。PTA総会の対面実施、PTA関係の各行事や活動の際、役員をはじめ多くの方々に参加していただき、好評であった。 ・今年度はPTA会長が砺波地区高P連大会で、本校のPTA活動についての発表や全国高P連宮城大会での紙上発表も行った。 ・役員の方々から意見をいただき、各委員会活動の内容の見直しや今後の役員定数の見直しも検討した。 				
学校関係者の意見	PTA諸行事や活動がスムーズに行われるように、役員との打ち合わせを通して事前準備や活動内容の検討が行われ、役員の負担感も少なくなるように工夫されていた。				
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員の協力を得ながら、保護者の参加意欲と満足度のより高い活動を目指す。 ・PTA活動の際に、アンケートや聞き取りを通じて、保護者や参加者の意見を収集し、今後の活動に生かす。 ・引き続きPTA役員の負担が過度にならないよう、総務部会で精査し行事を進める。 				

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった)